

序文

現在、世界中で非常に多くの眼科臨床研究が行われており、それらを全分野についてフォローしていくことは容易なことではありません。しかしながら、エビデンスに基づいた診療を行うためには、しっかりとしたプロトコールに基づいて行われた臨床研究を参考にしながら診療を行うことが求められていますし、実際にそれに答えるように現在ではさまざまな情報やツールが利用できるようになっていきます。日本眼科学会、American Academy of Ophthalmology、Europe Society of Ophthalmologyなどは多くの教育ページを提供していますし、ガイドラインや Preferred Practice Pattern を定期的に更新してくれています。加えて The Cochrane Library もありますし、雑誌についても以前からある Survey of Ophthalmology や各雑誌の review article に加え、Progress in Retinal and Eye Research や Annual Review of Vision Science、Current Opinion in Ophthalmology などの多くの review 雑誌において各分野における最新の研究成果がまとめられています。さらに近年、医療関係者や学生の間でよく使われるようになってきている UpToDate などのオンラインツールを使えば、よりストレートに最新の臨床研究の成果を知ることができます。

とはいえ正直なところ、日本眼科学会のホームページに掲載されているわが国のガイドラインにキャッチアップするだけでも困難を感じていらっしゃる先生も少なくないと思われます。さらに多くのガイドラインがありながらも、それでもそれぞれのガイドラインがカバーする領域はかなり広く、それらの内容の元となった研究や論文の詳細を知ることがガイドラインを読んだだけではできません。そうはいっても1つひとつ引用されている原著論文にまで当たるのはさらに大変です。

そこで本特集号では、まずはこれだけは外せないと考えられる臨床研究・論文についてまとめて解説したものを作成しようと考え、それぞれの分野のエキスパートの先生方にご協力をお願いしました。さらに、いきなり論文のタイトルから始めても、なかなかとっつきにくいと思いましたので、具体的な Question に対して論文を通じて Answer を提供するというフォーマットをとりながら、より各論文の核心に迫っていくような内容にすることを計画しました。論文の conclusion だけを skimming することは簡単ですが、それでは本当の論文の意味がわかりません。実際にどのような対象に対して、どのようなプロトコールを使って、どのように解析したのか、そして、その研究にはどのような限界と問題点があるのかということまで知っていただけるようにご解説いただきました。その結果、各先生方がその論文をどのように読み込み、解釈するのかということまで含んだ深い内容を入れることができました。言わば各分野のエキスパートによる紙上論文抄読会というところでしょうか。是非、皆様にご一読いただき、今後の診療、臨床研究の助けとしていただければ幸いです。

鈴木 康之（東海大学）